



## 「転換」

頭取 大道良夫

新年明けましておめでとございます。皆さまにおかれましては、お健やかに新しい年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

さて、当行は今年のキーワードを「転換」といたしました。新年にかける意気込みや目標を端的な言葉で表し、その実現に向けて役員全員が努力するとの決意を込めて毎年、年初に「今年のキーワード」を定めています。

「転換」とは「物事の性質、傾向、方針などが、それまでとは変わることを、変えること」(広辞苑)とあります。従来型の発想や行動にとらわれることなく、創造的、革新的、積極的に「変える」、「転換」する、との強い決意を込め、全役職員に呼びかけた次第です。

1点目は、発想の創造的「転換」です。すべての業務を「お客さま起点」で見直し、生産性を向上させ、付加価値の高い金融サービスを提供するために、役員一人ひとりが考え、行動を前向きに「転換」し、お客さま、地域社会に向けて私たちがなすべきことを徹底的に追求し、実践します。

2点目は、お取引先のビジネスモデルの革新的「転換」へのお手伝いです。あらゆる業種で生き残りをはけたビジネスモデルの再構築が進み、そのサイクルはますます速まっています。私たちは、新エネルギー、医療介護、観光、環境、地域振興などの分野を中心に、「第2創業」を含むビジネスモデルの革新的「転換」、ニュービジネスの創出に、全役職員が、地域の「未来」を創り出すとの「気概」を持って取り組んでまいります。

3点目は、持続可能な社会への積極的「転換」です。

「地球の危機」が叫ばれるなか、「お金だけを尺度にものを考え、行動する」時代はすでに終わり、意識の「転換」を迫られています。環境と経済、地域社会との「共生」を今こそ真剣に見つめる時だと思えます。

私たちは、経営に環境を取り込んだ「環境経営」、お金の流れで環境を守り育てる「環境金融」に取り組んでおりますが、このような危機意識に立って発想を転換、取り組みを強化して「持続可能な社会」の追求に努めます。

最近、お取引先とお話の中で「5年後、10年後の日本は？ 地域は？ そしてわが企業は？」との話題がたびたび出ます。結論は総じて「今までの延長線のままでは(生き残りは)難しい」というものです。

約20年前、すでに同様の疑問を持たれた何人かの経営者の皆さんが「自社の製品、サービスを見直そう。キーワードは『環境』である」と「転換」に取り組まれました。そして、創り出された新商品を広く知ってもらいたいと1998年に開催されたのが「びわ湖環境ビジネスメッセ」です。以来、年々盛大になり、日本有数のメッセとして今年で17回を数えようとしています。

今年の景況は回復の兆しにあります。私たちは今こそ、諸先輩が「転換」にかけられた気概と熱意を思い起こし、この「時代の大転換期」に立ち向かわねばなりません。当行も、地域金融機関としての使命を胸に全役職員あげて3つの「転換」に取り組んでまいります。

本年も、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。